

平成26年度版

あおもりの

野菜つこ



あおもりの野菜は、  
豊かな自然と  
きまじめな生産者が育てた  
安全・安心な野菜です。



発行：青森県農林水産部農産園芸課  
TEL：017-734-9481  
E-mail：noen@pref.aomori.lg.jp

青森県には世界に誇れる豊富な農林水産資源と、それを支える「きれいな水」や「健康な土」などの恵まれた生産基盤、さらには若い元気のある「人財」が育っているという強みがあり、これらを最大限に発揮する施策を展開していくことで、農林水産業の「成長産業化」をめざしています。

あおもりの野菜は、自然豊かな環境のもとで、生産者が「こだわり」をもって「正直にまじめに」育てた自信をもっておすすめできる「健康野菜」です。



## 目次

### 青森県の主要野菜

ながいも	・・・	2	きゅうり	・・・	2 2
にんにく	・・・	4	ピーマン	・・・	2 4
ごぼう	・・・	6	いちご	・・・	2 6
だいこん	・・・	8	えだまめ	・・・	2 8
にんじん	・・・	1 0	ねぎ	・・・	3 0
ばれいしょ	・・・	1 2	キャベツ	・・・	3 2
こかぶ	・・・	1 4	レタス	・・・	3 4
トマト	・・・	1 6	ほうれんそう	・・・	3 6
メロン	・・・	1 8	ブロッコリー	・・・	3 8
すいか	・・・	2 0	その他	・・・	4 0

青森県産野菜の生産と流通	・・・	4 3
付表	・・・	4 6
旬のカレンダー	・・・	5 1
日本一健康な土づくり推進運動	・・・	5 2
青森県の冬の農業の取組み	・・・	5 4

作付面積・出荷量で日本一の座に君臨  
名実ともに青森県産野菜のエース

# ながいも

青森県のながいもは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約4割を占めています。

品種は、在来種「ガンクミジカ」に由来する首が短く肉付きの良い系統や品種が普及しており、色白で粘りが強くアクが少ないのが特徴で、品質が良いながいもとして全国の市場から高い評価を得ています。

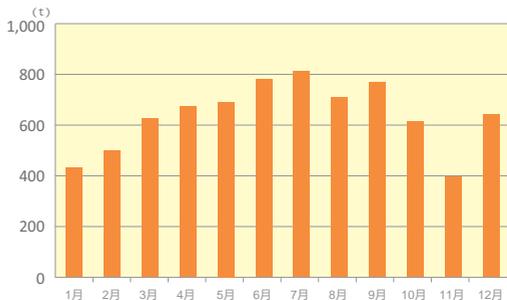
5月に植え付けが始まり、11～12月（秋掘り）と越冬後の3～4月（春掘り）の年2回収穫されます。

各産地には、低温貯蔵庫が整備され、年間を通じて全国に出荷されているほか、近年はアメリカにも輸出されています。

全国の生産状況（H25）

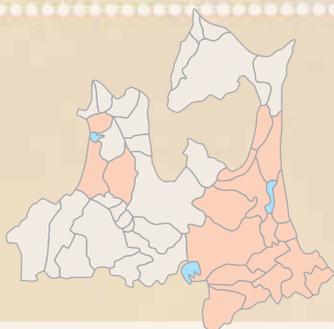
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	51,300	2,250
2	北海道	49,200	1,870
3	長野	5,830	317
4	茨城	2,620	124
5	岩手	2,460	196
	全国	114,900	5,200

県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

- 三八 八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、  
新郷村、階上町  
西北 五所川原市、つがる市  
上北 十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、  
横浜町、三沢市、六戸町、野辺地町、  
おいらせ町



### 産地レポート

## J A ゆうき青森

### 県内最大規模の産地

J A ゆうき青森のながいも生産部会は会員が575名、作付面積が450haで県内一の生産量を誇っており、エコファーミング認証システム（J A 独自の認証制度）に基づく徹底した土づくりによるおいしく安全なながいもづくりが自慢の産地です。

平成21年には全国でもトップクラスの規模を誇るながいも洗浄選別・貯蔵施設が完成。1日最大48tのながいもを処理できる安定した出荷体制の確立により、首都圏を中心とした周年出荷が行われています。



採種現地検討会

### 品質・収量向上への積極的な取組

品質の良いながいもを多く生産する基本はなんと言っても優良な種苗を使うこと。そのため、J A では種苗増殖ほを設置し、厳正な栽培管理やウイルス病のチェックを経た優良な種苗の増殖と生産者への供給が行われています。

また、生産者と協力しながらJ A 独自の系統比較試験や高支柱などの新技術実証試験を実施するなど、消費者の皆さんに喜んで食べてもらえるよう、さらなる品質・収量の向上に向けた弛まぬ努力が続けられています。

県目標の単収3.6tをクリアできるよう頑張ります！

### 「若手育成塾」開設による若手農業者への技術の伝承

平成24年度から、各産地の農協単位に若手農業者を対象とする若手育成塾が開設され、地域で高い技術を持ったながいも生産の「達人」を講師に、座学や現地研修が行われてい

ます。現在、全県（5地域）で106名の塾生が日夜研鑽を積んでおり、将来の産地を牽引する担い手として活躍することが期待されています。



十和田おいらせ塾生  
寺澤祐介さん

### 【topic】 各産地共通 の 「取組」

国産の7割を占める日本一の産地  
大きさ、雪のような白さ、品質の良さが自慢！

# にんにく

青森県のにんにくは、日本一の生産を誇り、国内出荷量の約7割を占めています。

栽培品種は、本県の気候に適した「福地ホワイト」が使用されており、その栽培は昭和37年から田子町で本格的に始まり、その後、水田転換政策により昭和40年代後半から全県に拡大しました。

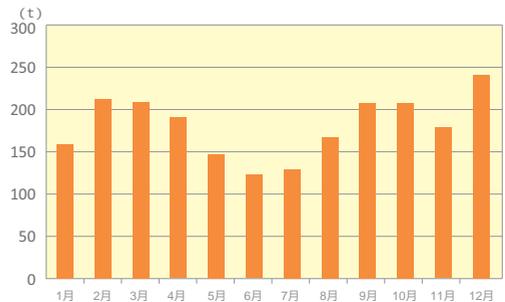
福地ホワイトは、県外産に比べ、大玉の6片種で、1片が大きく、実がよく締まり、雪のように白いことから、市場等で高い評価を得ています。

6～7月に収穫されたにんにくは、乾燥後冷蔵庫で保管され、1年を通じて安定して出荷されています。

全国の生産状況 (H25)

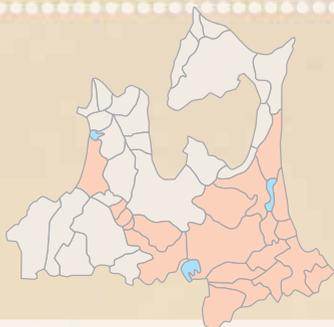
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	9,940	1,380
2	香川	745	101
3	宮崎	523	62
4	大分	301	48
5	北海道	267	67
	全国	14,500	2,340

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

- 中南 平川市、黒石市、藤崎町、田舎館村  
三八 八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、  
新郷村、階上町  
西北 つがる市、板柳町  
上北 十和田市、七戸町、東北町、六ヶ所村、  
三沢市、六戸町、おいらせ町



### 産地レポート

## J A 十和田 おいらせ野菜振興会にんにく部会

### 国内一のにんにく産地

J Aの主な産地は、野菜づくりが盛んな十和田市を中心とした上北地域です。管内の作付面積は374ha、出荷数量は2,060 tで、国内一の生産量を誇っています。

にんにくは、9月中旬～10月中旬に種となるりん片を植え付け、翌年6月下旬～7月上旬に収穫します。極寒の中でじっくり育つため、辛みが少なく甘みのある味わいとなっています。



### 新たな販売への取組

出荷先は、7～8割が関東方面で、他に大阪、名古屋、九州となっています。多方面からの引き合いが強く、市場出荷は元より、契約販売やインターネット販売等を取り入れた新たな販売方法にも力を入れています。

また、高付加価値化を目指し、低臭化したプレミアムにんにくを使って商品開発にも取り組み、これまでににんにくパウダーやにんにくドリンク等を製造、販売しています。

特に、にんにくパウダーは平成26年度青森県特産品コンクールで最優秀賞を受賞しました。



### 土へのこだわり「TOM-VEGEにんにく」

J Aでは、土壌のミネラル成分等を測定、調整し、糖度、硝酸値の独自基準に適合したものを「十和田おいらせミネラル野菜 (TOM-VEGE (トムベジ))」ブランドとして出荷しています。「健康で美味しい野菜づくりの基本は、健康な土づくりにある」という姿勢で生産者一丸となって、消費者に喜ばれる野菜づくりに励んでいます。

また、食の安全・安心が求められる中、トレーサビリティの徹底に努め、残留農薬検査も実施しています。



生産量日本一！  
健康志向の高まりでますます注目されています。

# ごぼう

青森県のごぼうは、日本一の出荷量を誇り、国内出荷量の約3割を占めています。

産地は、太平洋側、夏に「ヤマセ」とよばれる冷たい風が吹く上北地域に集中しており、同じ根菜類のながいもの輪作作物として、また健康野菜として注目されていることなどから、近年、生産が拡大しています。

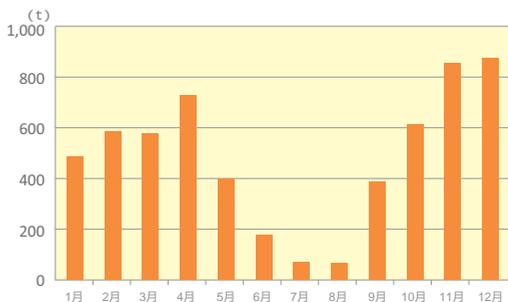
4月～6月に種をまき、9月～11月に収穫されたごぼうは冷蔵庫で保管され、ほぼ一年中、安定的に供給されています。

日本一の出荷量を誇る青森県のごぼうは、香りや風味が良く、繊維質が邪魔にならない程度に身が締まり、シャキシャキとした食感が特徴で、高品質なごぼうとして市場から評価を得ています。

全国の生産状況 (H25)

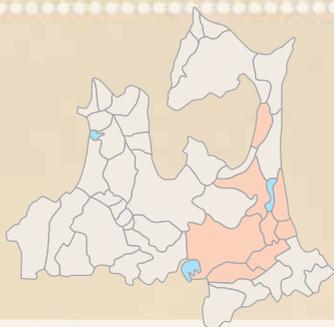
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	青森	46,300	2,360
2	茨城	20,200	1,090
3	北海道	16,500	814
4	宮崎	10,000	645
5	千葉	7,220	429
	全国	133,600	8,570

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

三八 五戸町、新郷村  
上北 十和田市、東北町、横浜町、三沢市、六戸町、  
おいらせ町



### 産地レポート

## J A おいらせ やさい推進委員会ごぼう部会

### 日本一の産地として

地域の主力品目であるながいもの輪作作物として導入されたごぼうは、収穫作業の機械化や長期安定出荷が可能となる貯蔵施設の整備により年々規模が拡大し、10年間で栽培面積は33%増の460haに、販売額は71%増の14.2億円に増加しました。

平成23年からGAP手法を導入し、生産から出荷において安全・安心の確保に努めています。

日本一の産地としての誇りと責任を胸に、美味しいごぼうづくりに取り組んでいます。

### 加工品開発で地域を元気に

地元の企業や生産者グループが中心となって、お菓子やごぼう茶など多くの加工品が作られ、農家の所得向上につながっています。地元高校生によるごぼうアイスの開発も行われるなど、ごぼうは地域に強く結び付き、地域を元気にしています。

### 夢は海外進出

「様々な取材をとおして、私たち生産者も成長することができた。」と語るのはJ A おいらせやさい推進委員会ごぼう部会長の織笠光子さん。テレビなどの取材を受けることで、ごぼうの効能など逆に勉強になることも多く、もっと自分達で勉強し、消費者の方々に食べ方などを提案できるようにならなくてはと感じたとか。

「自分達が生産するごぼうのすばらしさを再確認することもできた。海外ではすでにごぼうが健康野菜として注目されている。自慢のごぼうを海外の人にも食べてもらいたい。」

良い物をより多くの人に食べてもらうため、元気に、明るく、前向きに取り組む姿に、取材者も元気をいただきました。



白色でみずみずしいごぼう



春・夏・秋と本県の気候と地形を生かして  
生産、出荷量は全国3位

# だいこん

青森県のだいこんは、県内の野菜生産で最も作付面積と出荷量が多い野菜で、主な出荷時期は5～11月です。

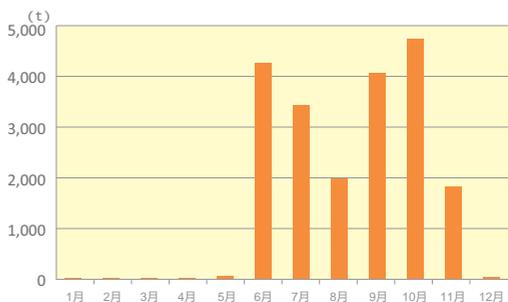
県内の生産は、上北地域（三沢市、東北町、六ヶ所村、おいらせ町）、中南地域（平川市、黒石市）、三八地域（新郷村）、下北地域（むつ市）等が主な産地で、県内の各地で産地を形成しています。

だいこんは、夏季涼涼な気候を好むため、春先の栽培では強い低温による食用部分の生育停滞を防ぐトンネル栽培や、夏場は涼しい高冷地などで栽培を行うなど、栽培する時期や場所によって品種や作型を変えるなどの工夫により品質の良いだいこん生産を行っています。

全国の生産状況（H25）

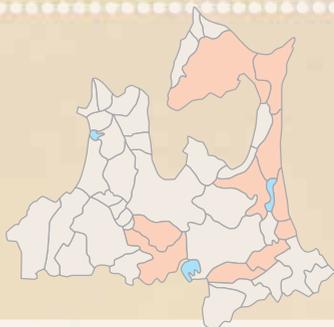
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	155,900	3,650
2	千葉	143,800	2,920
3	青森	111,900	2,990
4	鹿児島	91,900	2,100
5	宮崎	87,000	1,970
	全国	1,172,000	33,700

県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

- 春 三沢市  
夏 平川市、黒石市、五戸町、新郷村、東北町、  
六ヶ所村、三沢市、おいらせ町、むつ市、  
東通村  
秋冬 おいらせ町



### 産地レポート

## アグリネット21

### アグリネット21とは

アグリネット21は、東北町の生産農家10戸が集まってできた野菜の生産集団です。「21世紀農業を考え取り組む集団」として、平成15年に設立し、だいこんを中心に、ながいも、キャベツ、ばれいしょ、にんにく等の栽培を行っています。



### 生産的特徴的な取組

消費者に好まれる（安全、安心、安定供給）野菜作りを考え、徹底したミーティングを基本とした品質評価の向上に取り組み、高品質の農産物をJAを活用して出荷しています。

産地の高齢化と向き合い、水田転作の活用や省力化を進め、個別経営体の強化や地域経営発展に取り組んでいます。



### 流通の特徴的な取組

販売先へ年に1～2回ほど出向き、販売先や消費者からの評価を確認することで、産地として出来る役割を検討し、産地としての評価を高めるよう努めています。

また、鮮度の良い物を届けるために、翌日販売が可能となる出荷体制をとるとともに、店頭に並べやすいレンタルコンテナでの出荷を行うことで、品質の向上、労力の軽減、環境問題対策につなげています。

全国4位の出荷量  
7月が出荷ピーク



# にんじん

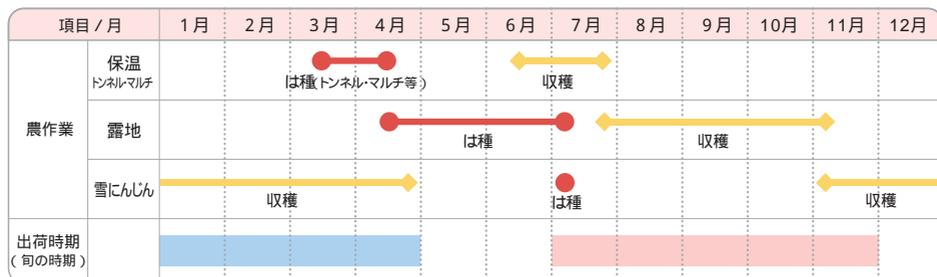
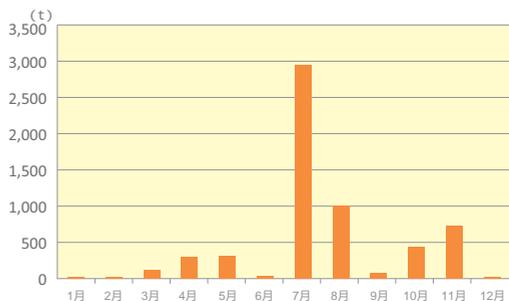
青森県のにんじんは、柔らかくて甘みがあり、保存性の高さにも定評があります。

県内の主な産地はおいらせ町、三沢市、六戸町、東北町で、関東の出荷が終わり北海道の出荷が本格化する前の7月が出荷のピークとなっています。

全国の生産状況 (H25)

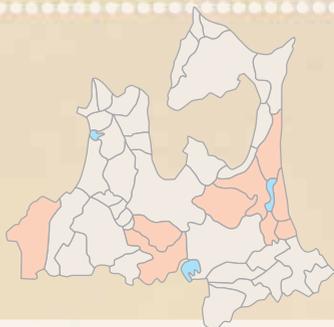
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	161,400	5,140
2	千葉	101,200	3,210
3	徳島	47,900	1,030
4	青森	37,400	1,270
5	長崎	29,700	836
	全国	535,900	18,500

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

- 春夏 七戸町、東北町、六ヶ所村、三沢市、六戸町、  
おいらせ町
- 秋 平川市、黒石市、七戸町、東北町、六ヶ所村、  
おいらせ町
- 冬 おいらせ町、深浦町



### 産地レポート

## JAおいらせ

### 新たな洗浄選別施設をフル稼働し素早く出荷

JAおいらせ管内では、根菜類を中心とした野菜の生産が盛んで、にんじんは、販売額ではながいも、ごぼう、にんにくに次ぐ第4の品目として年々生産量が増加しています。

このため、平成24年6月に新たなにんじん洗浄選別施設を整備しました。この施設には、カメラ選別機が導入されており、従来よりきめ細かな選別と迅速な処理が可能となったことで、以前は価格が下降する7月下旬以降まで販売が続いていましたが、現在は、他産地と競合する前に選別作業を終えることが可能となりました。

JAでは、平成26年度は出荷量7,600 t、販売金額10億円突破を目指しています。

### 農協のにんじん収穫機で適期収穫 鮮度を保持する出荷体制を整え素早く出荷

近年人手による収穫では労働力の確保が難しくなっています。JAおいらせでは、収穫適期に達したにんじんを順次収穫機で収穫した後、すぐに洗浄選別施設へ搬入し、洗浄、選別、こん包を経て真空予冷して素早く出荷しています。



収穫機による収穫



カメラによる形状選別



こん包



真空予冷

北海道・長崎の2大産地の端境期を  
 ねらった中堅産地、7～8月中旬にも出荷

# ばれいしょ



ばれいしょは、全国的には秋から北海道、春には長崎県からの出荷が多く、青森県はこれら産地の端境期から出荷し、主な出荷時期は7月から9月です。また、主な産地は、横浜町、三沢市、東北町、六ヶ所村などで、太平洋側で栽培が盛んです。

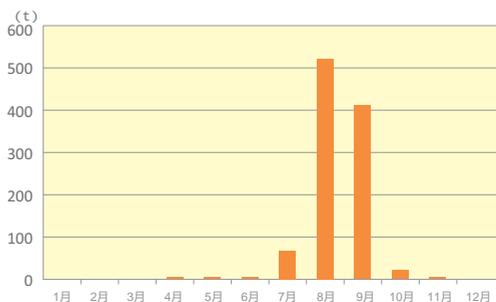
品種は、煮崩れの少ないメークインが多く作付けされています。

変わったところでは、大間町の奥戸（おこっぺ）地区で主に栽培されることからその名が付いた「オコッぺいも」もあります。皮色が黄色、形が偏卵形の大きいもで、煮えやすく肉質はホクホク系で皮ごとふかすと皮がぷちんと弾け、ほっこりした食感は男爵いものそれと似ていますが、さらにサラサラしているのが特徴です。

## 全国の生産状況（H25）

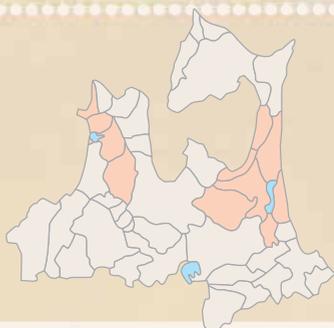
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	1,668,000	52,400
2	長崎	90,200	4,000
3	鹿児島	81,900	4,410
4	茨城	34,400	1,470
5	千葉	24,100	1,280
6	青森	13,400	884
	全国	1,999,000	79,700

## 県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

西北 五所川原市、中泊町  
上北 七戸町、東北町、六ヶ所村、横浜町、三沢市、  
六戸町、野辺地町



### 産地レポート

## ＪＡおいらせやさい 推進委員会馬鈴薯部会

栽培期間が短く後作の導入ができるなど、  
経営に有利

ばれいしょは、冷涼な気候を好み、年による豊凶の差が小さく、栽培期間が3～4ヶ月と短期間で後作の導入ができ、経営に有利な品目であることから、ＪＡ管内では昭和57年頃からマルチ栽培が増え始め、今では県内有数の産地となっています。



ＪＡ管内の生産者数は97名で、栽培面積は53haとなっており、品種はほとんどがメークインで、一部キタアカリが作付けされています。



こだわりのメークイン栽培で  
北海道との差別化をはかっているぞ！

### 安全・安心で環境に優しい生産

ＪＡでは、土壌診断に基づく適正な施肥、農薬使用回数の低減、農薬残留検査の実施など、特色のある栽培方法で安全・安心で環境に優しい生産を行っています。

### ＪＡの施設で共同選別・出荷

部会員がほ場から収穫してきたばれいしょは、十分に風乾したのち、ＪＡの施設で各等級ごとに選別され出荷されます。

ここでは、大きさやキズ等をしっかりチェックしています。



太平洋からの冷たい風が吹き付ける  
ヤマセ地帯は、夏場のこかぶ栽培に最適



# こかぶ

かぶには聖護院かぶ、天王寺かぶなどの大型のかぶ、日野菜かぶ、赤かぶなど主に漬け物に用いるかぶなど、大きさや用途によって多くの種類がありますが、青森県の主力はこかぶです。

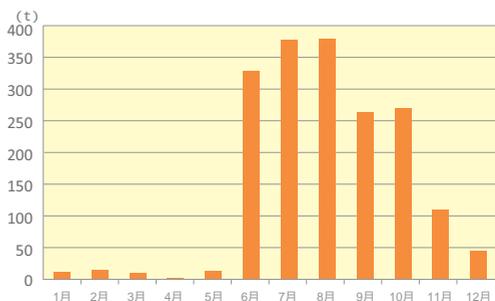
夏場でも涼しい気候の中で生産される本県のこかぶは、皮が薄く色白で、鮮度がよいと好評を得ています。

皮をむいて生で食すと、梨のような瑞々しさと食感、ほのかな甘みを感じられます。

全国の生産状況 (H25)

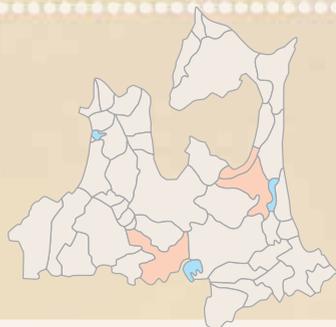
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	33,300	996
2	埼玉	15,000	481
3	青森	7,290	217
4	京都	4,670	164
5	北海道	4,290	156
	全国	108,500	4,750

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

中南 平川市  
上北 東北町、野辺地町



### 産地レポート

## J A ゆうき青森

### 産地形成の歴史

野辺地町は、ヤマセの影響により、夏季に低温・低日照となりやすい上、耕地面積も少ないことから、農業振興のためには収益性が高く、しかも女性や高齢者が生産に参画しやすい軽量野菜の取組が必要でした。そこで、野菜品目を模索し、昭和58年からこかぶ栽培の取組が始まりました。



### 生産・栽培上の特色

商品力の強化策として、周辺地域に多い畜産農家で生産される完熟堆肥の投入や、緑肥による健康な土づくりと、被覆資材を活用した農薬節減を基本とした栽培基準を作成し、安全・安心な葉つきこかぶの生産を進めています。さらに、生産コストの低減と栽培技術の向上を図るため、定期的に現地指導や情報交換を行い、全国に誇れる品質の確保に日々努めた結果、瑞々しさあふれる高品質なこかぶ生産を実現しました。



### 出荷の工夫・販売戦略

品質の低下を極力抑えるよう、収穫は気温の低い夜明け前から行われます。収穫後の品質保持のため、各農家では洗浄機によるスピーディな洗浄、調整作業が行われ出荷されます。農協では冷蔵施設や真空予冷施設を計画的に整備し、とれたてのおいしさを食卓に届ける取組が行われています。これら徹底した品質管理によって、

市場では「夏場の品質日本一」と非常に高い評価を得て、他産地に比べ高い価格で取引されています。

平成19年11月に、地域ブランド化推進の取組として「偏東風と大地の恵み野辺地葉つきこかぶ」が商標登録され、平成24年8月には「野辺地葉つきこかぶ」の名称で地域団体商標に登録されたことから、野辺地町の特産品として更なるブランド化が期待されています。

## 東京都中央卸売市場の8、9月入荷の トマトは、5個に1個が青森県産

# トマト



青森県のトマト生産は、昭和51年から本格的な栽培が始まりました。

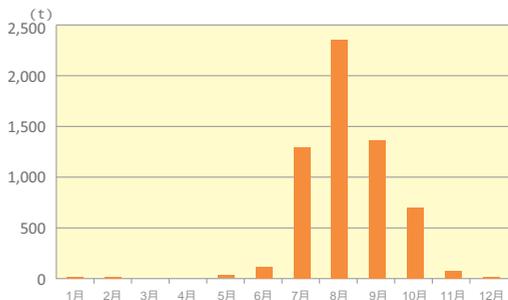
夏場の生産が中心で、夏秋トマト（7～11月）の出荷量は全国8位で、特に東京都中央卸売市場への出荷が多く、8～9月はシェア1位、5個に1個が青森県産です。昼夜の気温差が大きい青森県で生産されるトマトは、味が良く、日持ちの良さにも定評があります。

県内の生産は、西北地域（五所川原市、つがる市） 中南地域（弘前市、平川市、黒石市） 東青地域（青森市、蓬田村） 三八地域（南部町、三戸町） 上北地域（七戸町）等が主な産地で、県内の各地で産地を形成しています。

### 全国の生産状況（H25）

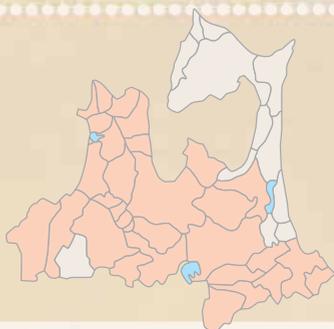
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	114,600	1,140
2	北海道	55,200	833
3	茨城	45,400	908
4	愛知	44,300	523
5	千葉	42,400	835
13	青森	15,600	378
	全国	670,500	12,100

### 県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

夏秋 青森市、外ヶ浜町、平内町、今別町、蓬田村、弘前市、平川市、黒石市、大鰐町、藤崎町、田舎館村、八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、階上町、深浦町、五所川原市、鯨ヶ沢町、つがる市、中泊町、鶴田町、板柳町、十和田市、七戸町、東北町  
冬春 南部町、三戸町



### 産地レポート

## J A つがる弘前特別栽培トマト部会

### 産地の概況

生産の中心弘前市清野袋地域は、岩木川沿いの沖積土地帯に位置し、水はけが良いことから病気の発生が少ないという好条件に恵まれています。



### 環境に配慮した「おいしいトマト」栽培

安全・安心なトマト生産のため、通常の栽培と比較して農薬5割以下、化学肥料5割以下での栽培により平成12年から青森県特別栽培農産物認証を取得しています。

病害虫の発生状況に常に注意しながら効果的な防除を心掛けており、ハウス内では除草剤を使用せず、機械や手取りによる除草などにより、農薬使用回数を少なくしています。

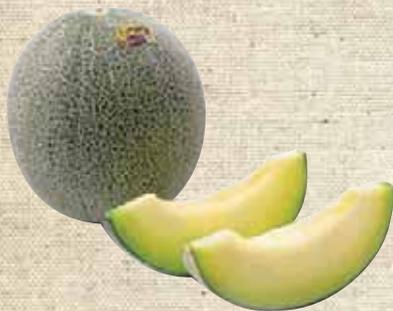
### 販売状況と産地づくり

主な出荷先はJ A全農青果センター東京センターで、首都圏の生協等を中心に販売されており、青森県産トマトの平均単価と比較して1割程度高値で取引されています。

また、繰り返し使用できるリターンブルコンテナによる出荷を実施するなど、環境への配慮や消費者ニーズに対応した産地づくりに努めています。



## メロンの出荷量は全国5位 頃感と高い糖度がセールスポイント



# メロン

青森県のメロンは、ほとんどが雨除けトンネルで栽培され、ネット系メロンを中心に、白皮品種、黄皮系品種を組み合わせるバランスのとれた栽培を行っています。

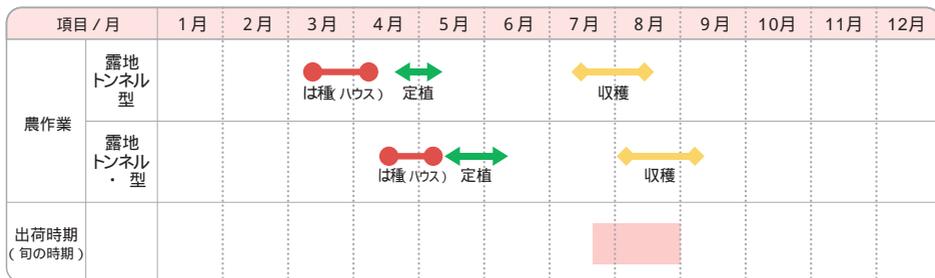
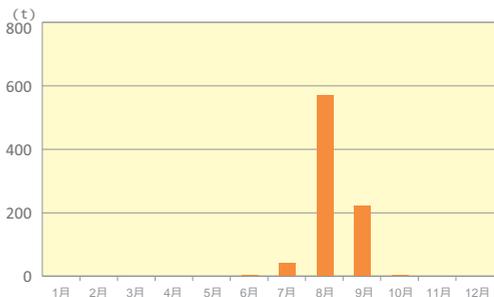
出荷量は全国5位と上位に位置しています。出荷先は東海・近畿地方が多く、8月がピークとなっています。

本県の主力品種である「タカミ」は、果肉が緑色で厚く、肉質はやや硬めで日持ち性が良く、糖度が16度前後と極めて高いという特徴を持っています。

### 全国の生産状況 (H25)

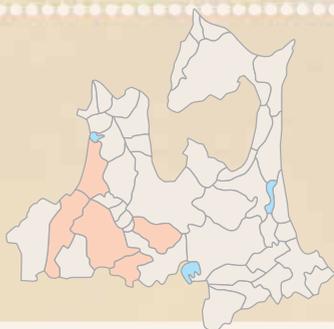
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	36,500	1,390
2	北海道	25,800	1,240
3	熊本	23,400	1,050
4	山形	11,000	603
5	青森	9,530	585
	全国	153,100	7,560

### 県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

中南 弘前市、黒石市、大鱈町  
西北 鱒ヶ沢町、つがる市



### 産地レポート

## つがる市

### メロン栽培に適した環境条件

主力産地のつがる市は、本県の作付面積の7割以上を占めています。つがる市の西側に広がる屏風山砂丘地域は、水はけが良いこと、昼夜の温度較差が大きいことから、メロン栽培に最適な環境条件を有し、全国有数のメロン産地となっています。



### 優れた栽培技術

環境条件と並んで重要なのは栽培技術です。40年以上にわたり培われた栽培技術は地域にとって大きな財産となっています。また、メロンは手間暇を掛けないと品質の良いものができないことから、生産者は惜しみない努力を続けています。

### J Aごしょつがる木造総合支店における共同選別・出荷

J Aごしょつがる木造総合支店メロン部会では、平成25年3月、高画素CCDカメラセンサー付選果機を新たに導入しており、等階級の格付け及び糖度測定をこれまでより速く正確にできるようになったことで、糖度表示等による付加価値の高いプレミアムメロンの出荷が可能になりました。



つがる市農産物  
イメージキャラクター  
「つが～ちゃん」

### 信頼される産地づくり「つがるブランド」

つがる市では、市内で生産されたメロン等8品目を対象に、エコファーマーの取得等独自の基準を設けて「つがるブランド」に認定しています。認定されたメロンは、つがるブランドとして各地へ出荷されています。

青森県のすいかは屏風山地帯が主産地  
昼夜の気温差が大きく水はけが良いため糖度抜群！



# すいか

青森県での主産地は鱒ヶ沢町からつがる市に広がる日本海岸の屏風山（びょうぶさん）地域であり、この一帯で県内の8割以上が生産されています。

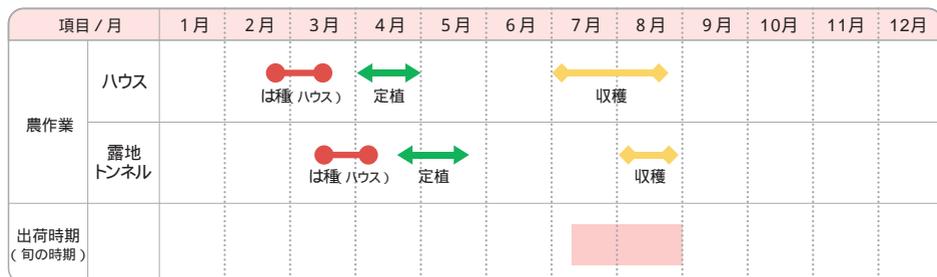
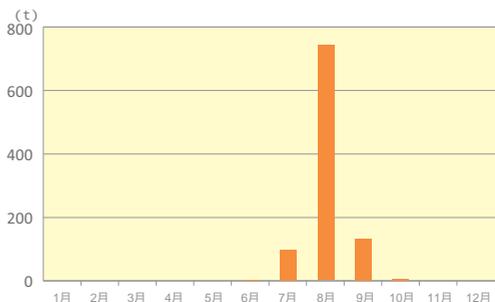
出荷先は関東、東海、近畿地方向けが多く、8月を中心に出荷されています。

品種は縞王系、縞無双、祭りばやしを主体に、姫甘泉、ひとりじめなどの小玉すいか、枕形の紅まくらなど導入されていますが、いずれも果肉の発育が良く、肉質がきめ細かくしまっており、甘さ抜群で日持ちも優れています。

全国の生産状況（H25）

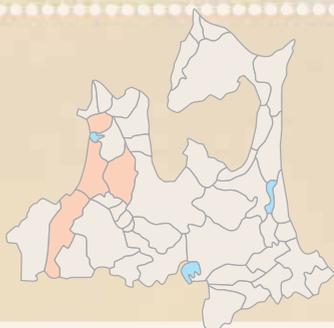
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	熊本	51,000	1,510
2	千葉	38,800	1,110
3	山形	27,600	872
4	鳥取	19,300	397
5	新潟	18,800	616
13	青森	8,410	337
	全国	304,700	11,000

県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

西北 五所川原市、鱒ヶ沢町、つがる市



### 産地レポート

## 屏風山野菜生産組合（つがる市木造館岡）

### 昔から、すいかと言えば「屏風山」

屏風山地域で本格的なすいか栽培が始まったのは、昭和30年代半ばといわれています。地域特有の気候（昼夜の温度較差が大き）と水はけの良い土地が、糖度を格段に高め、甘くてジューシーだと評判になりました。

昭和40年には、安定した品質・生産・出荷量を確保するため「屏風山野菜生産組合」が組織されました。



### 夏場の産地として市場から高い評価

栽培面積は約30haであり、「津軽縞王」、「紅まくら」が主力品種となっています。出荷時期は7月中旬～8月末であり、東京、名古屋、大阪などの市場に出荷され、夏場の産地として市場から高い評価を得ています。

### ブランドすいか「屏風山西瓜」

昭和44年に「屏風山西瓜」で商標登録を行い、ブランド化に努めてきました。

味を凝縮させるため1株に2～3個だけ着果させるなど、おいしいすいかの生産にこだわっているほか、インターネットによる栽培履歴の開示、組合員全員がエコファーマーを取得するなど、安全・安心な農業を目指しています。



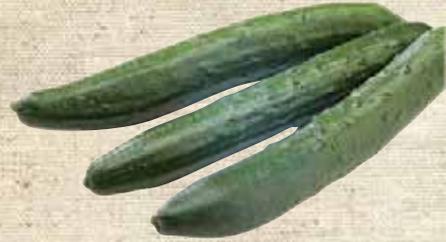
### 【topic】

屏風山地域とは...



鱒ヶ沢町から十三湖までの長さ約30km、海岸から内陸3～4kmの地帯を指し、7,500haにも及びます。江戸時代に砂防のため黒松が植林され、その様相が屏風のようにとして「屏風山」と称されています。

県南地域と都市近郊に生産が集中  
関東向けの出荷が大半を占める



# きゅうり

きゅうりは、形状、鮮度に加えて、色、光沢など外観が重視される傾向が強く、青森県ではブルームレスきゅうり（以前のきゅうりは表面に白い粉がふいていましたが、この粉のないもの）が主流となっています。

なお、近年は、味にこだわったブルームきゅうりや本県に古くから伝わる糠塚きゅうりなどこだわりの個性派も出荷されています。

県内の主な産地は、五戸町、十和田市、弘前市などとなっています。

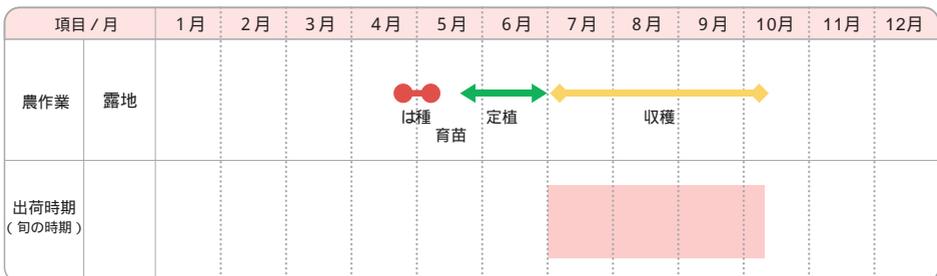
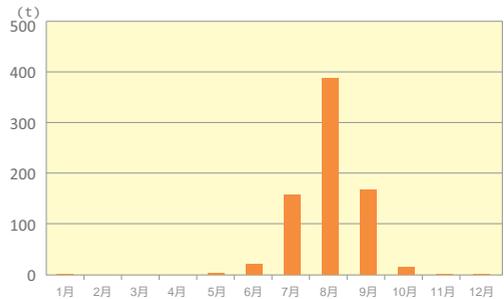
『糠塚きゅうり』とは

八戸地方で6月下旬～8月のお盆にかけて出回るシベリア系の在来種。藩政時代に持ち込まれ、八戸市の糠塚地区で栽培されたのが始まりとされています。短太でイボが黒く堅い果皮ですが、中身は歯切れの良いみずみずしい食感です。

## 全国の生産状況（H25）

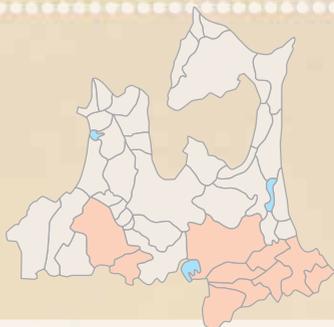
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	宮崎	61,400	720
2	群馬	49,000	940
3	埼玉	43,300	692
4	福島	37,600	728
5	千葉	28,600	505
27	青森	3,860	178
	全国	487,400	11,400

## 県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

夏秋 弘前市、大鰐町、八戸市、田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、階上町、十和田市



### 産地レポート

## J A つがる弘前きゅうり部会

J A つがる弘前のきゅうりは、夏場を主体に収穫され、厳しい品質・規格のチェックを行ったあと、東京方面へ向けて出荷されます。

平成26年現在で部会員は38人、栽培面積は4.3haとなっています。

現在「光琳」、「ほっきこう113」の品種を作付けしており、市場から高い評価を得ています。



部会長の原子尚之氏

### りんご+きゅうり、夏場の農業経営の柱に！

きゅうりの作付けが伸びている大鰐地区は、きゅうりが本格的に栽培されて17年あまり。導入のコストがかからず夏場の収入が期待できるきゅうりが人気となっています。



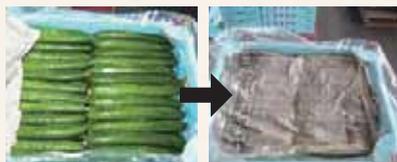
試験中のマルチムギ栽培

### 試験栽培ののち部会員へ普及

品種比較試験はもとより、敷きわら効果を発揮するマルチムギ栽培や仕立て方法などを、主力メンバーで試験し、効果を確認したうえで会員に広めるなど、良品多収への努力が重ねられています。

### 簡単だけど結構いい、濡れ新聞紙！

出荷の際、製品には「濡れ新聞紙でフタ」。これが意外といいんです。東京でも鮮度が良いと評判です。



高齢者や女性が生産を支える  
出荷量は全国 9 位も夏場の首都圏の  
需要に欠かせない産地

# ピーマン



青森県のピーマンは、6～10月に出荷される夏秋ピーマンが中心で、青森市周辺の東青地域や県南部の三八地域などに産地が形成されています。

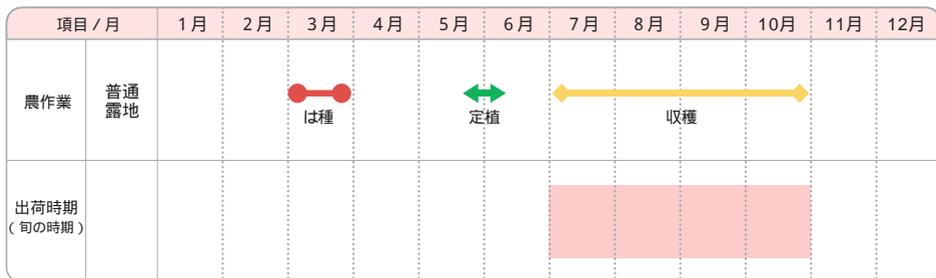
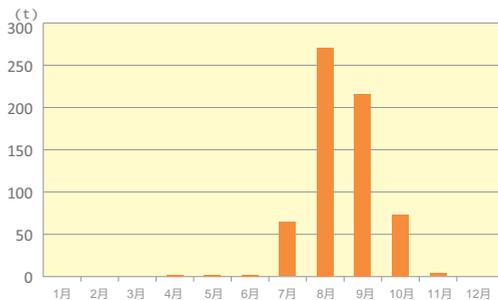
収穫は、すべて手作業となることから、多くの収穫労働力を必要としますが、果実が軽い特性などから、比較的高齢者や女性が取り組みやすい品目として定着しています。

青森県産は、8月に出荷ピークを迎え、東京都中央卸売市場全国4位の出荷量を誇ります。

全国の生産状況 (H25)

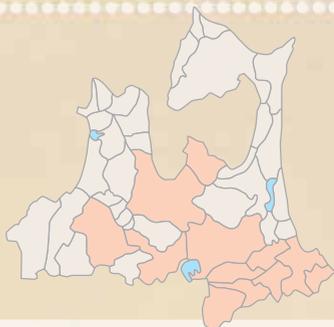
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	茨城	32,400	558
2	宮崎	26,600	323
3	高知	12,500	141
4	鹿児島	11,000	148
5	岩手	6,050	185
9	青森	2,830	100
	全国	126,300	3,360

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

夏秋 青森市、平内町、弘前市、平川市、八戸市、  
田子町、五戸町、南部町、三戸町、新郷村、  
階上町、十和田市



### 産地レポート

## J A 八戸

### 生産者急増中の伸び盛り産地

青森県には38か所の野菜の指定産地がありますが、このうち最も新しいのが平成22年に指定されたJ A八戸のピーマン産地です。

平成25年の生産者数は320名で、作付面積は29haとなっています。出荷ピークは、8月中旬から9月上旬で、1日当たり約5千ケースが東京市場を中心に出荷されていきます。



採れたて'ピカピカ'ピーマン



### お母さんパワーが産地を支える

生産の主役は、地域のお母さんたち。J Aでは、栽培技術向上のための講習会や出荷規格統一のための目揃い会などを定期的で開催し、収量や品質向上を後押ししますが、そこには常に多くの参加者があり、熱心に良品多収生産に向けて技術を磨いています。その姿は、県内でも最も元気な産地の一つであることを強く印象づけます。

### さらなる生産拡大を目指して

「目標は作付面積を45haまで増やすこと。そうすれば、選果機を導入できる規模となり、一層の省力化ができ、収益もより安定する。」と語るのはJ A八戸ピーマン・パブリカ専門部八戸支部長の三浦賢さん。自らは10aを作付けし、地域の平均単収が6tの中で、10tどりを達成。栽培のポイントは「とにかくこまめに手をかけること」だとか。若い人たちには「いつでも畑を見に来て、技術を高めて欲しい」とエールを送り、将来の産地発展を見据えて意欲的に取り組んでいます。



冬場の日照時間が長い太平洋側が主産地  
 夏季冷涼な気候で夏秋いちご生産拡大中



# いちご

いちごには、11月から6月にかけて収穫される「冬春いちご」と7月から10月にかけて収穫される「夏秋いちご」があります。

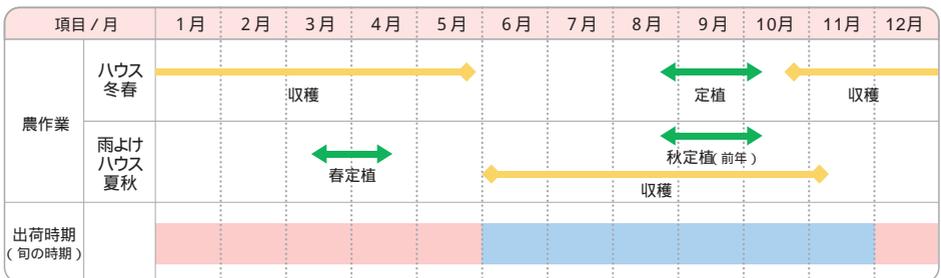
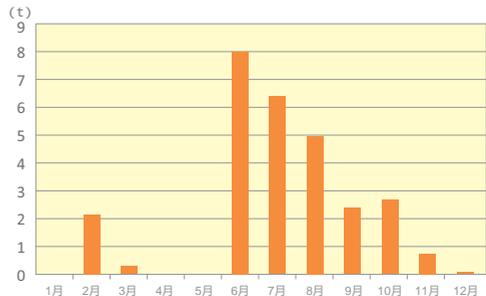
青森県のいちご生産は、「冬春いちご」が多くなっており、冬場の日照時間が長い太平洋沿岸の八戸市が主産地で、出荷は県内市場が中心となっています。

また、近年、本県の夏季冷涼な気候を活かした「夏秋いちご」が中南地域を中心に、県内各地で定着しています。

全国の生産状況 (H25)

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	栃木	24,200	605
2	福岡	16,500	456
3	熊本	11,300	338
4	静岡	10,800	320
5	長崎	10,300	279
31	青森	863	91
	全国	151,800	5,600

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

冬春いちご 田舎館村、八戸市、おいらせ町  
夏秋いちご 平川市、黒石市、田舎館村ほか



### 産地レポート

## 津軽苺出荷組合

### 組合の概要

津軽苺出荷組合は、田舎館村、黒石市、弘前市など夏秋いちご生産者20戸から構成されており、サマルルビー、すずあかね等の栽培を行っています。



### 生産上の特色

組合が心がけていることは、まず、販売先の信頼を得るうえで最も大切となる、出荷の安定性です。そのため、6月から11月まで途切れることなく出荷できるよう、作型の分散に留意しているほか、新しい仲間を迎えたり組合員一人ひとりの規模拡大を図るなどして、栽培面積の拡大に努めています。また、新規の生産者に対して、栽培技術の習得に向けて組合員がマンツーマンの体制で生産指導を行っているほか、初期投資の軽減など安定した経営が展開できるよう、これまでの経験をもとにアドバイスしています。

その他、組合では、品質の良い夏秋いちごを出荷するうえで重要となる選果に重点をおいているほか、安全・安心の観点から、天敵などを活用して農薬の使用量の減少に努めており、これらについて、組合全員で情報を共有しながら取り組んでいます。

### 販売戦略

市場相場に左右されることなく、年間の採算見通しを立てるため、出荷先と相談のうえで取引価格を設定し、直接販売を行っています。主に県内洋菓子店や首都圏のテーマパークなどに出荷しています。

夏秋いちごは、中途半端な気持ちでは取り組めない作物ですが、その反面、高い収益が期待できる、たいへん面白みのある作物だと思っており、これからも新しい仲間を募っていきたくと考えています。



## 転作作物として定着

7月から10月まで、安定した出荷で需要に応える

# えだまめ



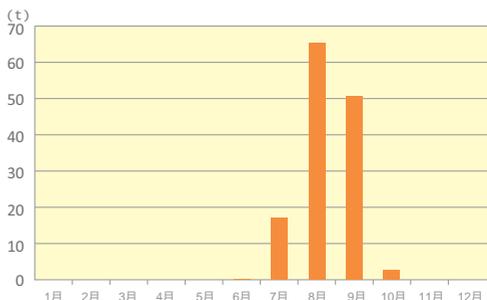
青森県のえだまめは、田子町、弘前市、南部町などで転作田を中心に栽培されています。7月から10月まで出荷するために品種を組み合わせることで作付けされています。

8月下旬以降は、食味の良い在来種の「毛豆」や毛豆から生まれた「あおり豊丸」、「あおり福丸」が出荷されます。莢に茶色のフサフサした毛があり、粒がとても大きく、味が濃いのが特徴です。

### 全国の生産状況 (H25)

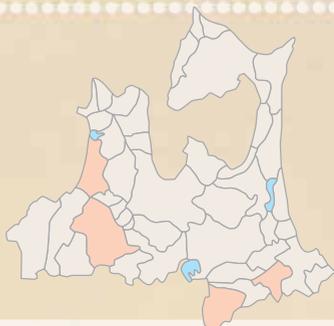
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	6,180	854
2	北海道	4,690	747
3	群馬	4,390	1,150
4	埼玉	4,220	681
5	山形	3,330	1,460
20	青森	520	314
	全国	46,100	12,400

### 県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

中南 弘前市  
三八 田子町、南部町  
西北 つがる市



### 産地レポート

## ＪＡ八戸 えだまめ専門部田子支部

ＪＡ八戸管内の田子町のえだまめ栽培は県内でも古く、30年以上前から行われています。

収穫は、傷みを無くするため全て手作業で行い、丁寧に洗浄した後に、選別します。鮮度を保つため、枝付きのまま名前入りの小袋に詰めています。



手作業での調整

### 県認証の特別栽培の取組

生産したものを単に販売するだけではなく、お客様のニーズ（市場の要望）に応えるための取組をしっかりと行っています。農薬や化学肥料の使用量を通常の5割以下に減らして生産する特別栽培への取組も、このような市場からの要請に応える形として、平成12年の認証制度開始当初から取り組んでいます。



県認証特別栽培の取組ほ場

### 病害虫対策

ダイズシストセンチュウ被害で、莢の黄化による品質低下や生育不良による減収が問題となっていました。対抗植物（クリムソクローバー）で被害軽減に努めています。



対抗植物(クリムソクローバー)

### 出荷規格、出荷形態の統一について

ＪＡの合併を機に、今まで異なっていた品種や出荷形態、規格などの統一を検討し、地域全体でより良い物を安定してお届けできるように、今後も頑張っていきます。



えだまめ生産者

ながいもなどの輪作や転作田への導入で生産が拡大  
根深ねぎの出荷量は東北一

# ねぎ

関東では白い部分が長い根深ねぎ（白ねぎ）、関西では緑色が大部分の葉ねぎと地域によって好みは異なりますが、青森県での生産は、土寄せをして軟白化させた根深ねぎが主体となっています。

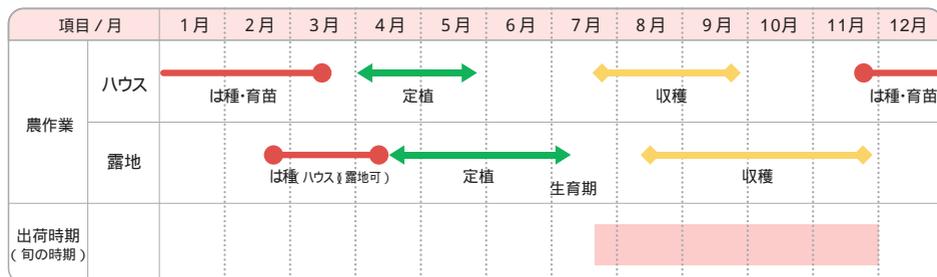
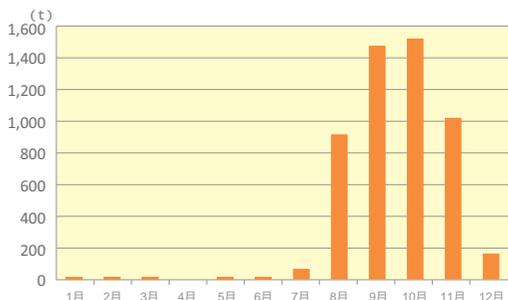
特に、夏ねぎ（7～9月）の出荷量は全国で5位にランクされます。

県南地域ではながいも等との輪作作物として、また、津軽地域では水田の転作作物として作付けされています。

全国の生産状況（H25）

順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	58,300	2,400
2	埼玉	51,700	2,420
3	茨城	40,900	1,910
4	北海道	22,000	829
5	群馬	15,600	1,080
7	青森	11,400	579
	全国	380,700	22,900

県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

- 夏 青森市、八戸市、田子町、五戸町、南部町、  
三戸町、新郷村、階上町、つがる市、十和田市、  
七戸町、東北町
- 秋冬 平川市、八戸市、田子町、五戸町、南部町、  
三戸町、新郷村、階上町、つがる市、  
十和田市、七戸町、東北町、三沢市、六戸町



### 産地レポート

## JA十和田おいらせ (ぼけしらずネギ)

JAは、野菜栽培が盛んな青森県の太平洋側地域にあり、十和田市周辺の222名がねぎの栽培に取り組んでいます。

最終培土後に手作業で土寄せすることで、葉身の緑と軟白部分の白色の境目がくっきりとした「ぼけしらずネギ」は、見栄えが良いと市場から高評価を得ています。

### 土壌診断で野菜も健康に！

バランスの良い土壌で健康な野菜を育てることを目標に取り組んでいるのが「十和田おいらせミネラル野菜」。

土壌診断を必ず実施する、診断結果に基づいてミネラル資材を施用する、出荷前の糖度が基準を満たしたねぎが「ぼけしらずネギ」として出荷されます。安全・安心なだけでなく、甘くてえぐみのない美味しい野菜として評判です。



きっちり土寄せされたねぎ



収穫・出荷はご夫婦の連携が重要です

「十和田のねぎは甘くて美味しいので、ぜひ、食べてみてください」

### 良い物をしっかりと

「良いねぎをきちんと作るために、無理はしない」真面目な口調で話してくださいしたのはJA十和田おいらせ野菜部会大深内支部の水尻忠司さん。ねぎ80aの他に、水稲、ながいも、にんにくを栽培しています。

「土をきちんと調べて、必要な資材を必要な分だけ入れて、土寄せも手できちんとやらないと色がぼけてしまう」一つ一つの作業を丁寧に、真面目に、このまっすぐな取組から安全・安心・美味しいねぎが生まれるのだと感じました。

日本人が最も食べる野菜で、夏秋期には  
夏季冷涼な気候を活かして全国6位の産地

# キャベツ

青森県のキャベツは、6～10月が出荷の中心で、特に夏秋キャベツ（7～10月）の出荷量は、全国6位です。

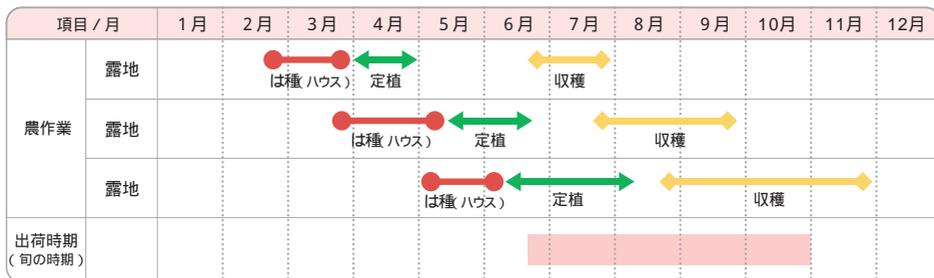
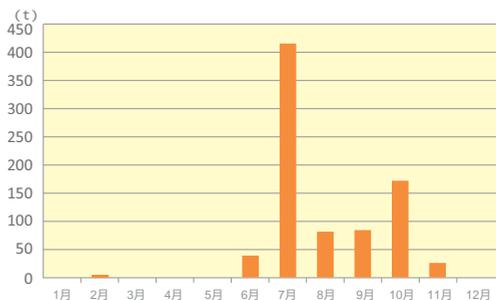
キャベツの品種・系統としては、「春系」や「寒玉系」などが代表的ですが、春系（サワー系）は葉がやわらかでサラダ向き、寒玉系は葉がややかたためて加熱すると甘くなることから餃子やロールキャベツに向きます。

本県では、春系が主ですが、用途や生産時期に応じて寒玉系も生産され、主な産地は、おいらせ町、三沢市、平川市などとなっています。

全国の生産状況（H25）

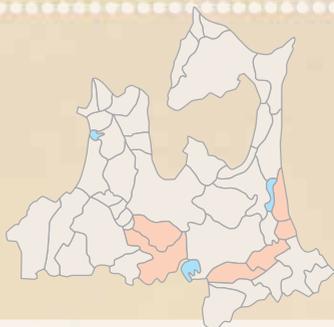
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	愛知	246,900	5,590
2	群馬	225,500	3,710
3	千葉	117,400	2,960
4	茨城	90,700	2,240
5	神奈川	72,400	1,670
14	青森	14,500	492
	全国	1,276,000	34,300

県産月別入荷量（H25 東京都中央卸売市場）



## 主な産地

夏秋 平川市、黒石市、五戸町、新郷村、三沢市、  
おいらせ町



### 産地レポート

## J A 十和田おいらせ ももいし支店

### 加工・業務用生産の開始

おいらせ町のキャベツ生産は、県内一の産地として、県内外からの評価を得ていますが、J Aでは、国内の需要動向の変化への対応と生産者の農業所得確保、収益性向上を目的に、平成18年度から加工・業務用キャベツの生産・出荷に取り組んでいます。



キャベツ収穫

### 契約取引の取組

加工・業務用キャベツは、サラダ商品用原材料として県内外の流通・加工業者と契約取引を行っています。年々、出荷量の拡大が進み、平成26年度は、取引先6社に出荷しています。



生産地（畑）からの搬出

### 収益性向上に向けて取組

作付品種については、実需者の要望を考慮して、球のしまりの良いことや、内葉に青みが残っている品種とすることで、生産者の収益向上のため気象条件や作型、食味・多収性を備えた品種の選定に努めています。

また、出荷時にスチールコンテナ（リース形式で導入）の利用を始め、出荷作業の省力化と流通経費の低減に努めています。



スチールコンテナの出荷品

涼しい気候の八甲田高冷地が産地。  
高原レタスは鮮度の良さが決め手！



# レタス

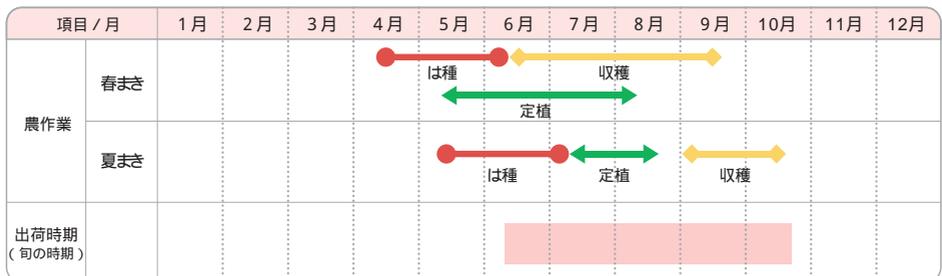
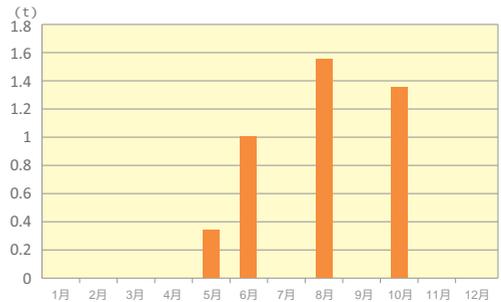
レタスといえば高原野菜の代表格として、長野県や群馬県をイメージする方も多いと思います。冷涼で乾燥した気候を好むレタスは、青森県の気候にも合い、夏秋期に生産されています。

本県産の出荷は、6～10月が出荷の中心となっています。主な産地は、平川市、黒石市となっており、夏季も冷涼で昼夜の気温差が大きく夏秋期のレタスの生産に適している地域です。

全国の生産状況 (H25)

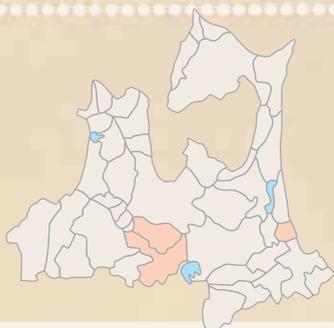
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	長野	195,800	5,900
2	茨城	83,600	3,690
3	群馬	50,500	1,280
4	兵庫	29,800	1,230
5	長崎	27,400	876
24	青森	1,930	113
	全国	547,100	21,300

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

夏秋 平川市、黒石市、おいらせ町



### 産地レポート

## 南八甲田高原野菜生産組合 (JA津軽みらい)

### 高冷地だからこそ、ここが違う夏秋レタス

八甲田山系の南西に位置し、標高350~700mの山間谷地に広がった畑で夏期の冷涼な気候を活かした夏場のレタスが栽培されています。

この産地は、日中の寒暖の差が大きいことから品質が良く、市場からも一目置かれる産地となっています。



### 雪が消えたらまずレタス作業、高冷地はレタスから始まる!

高冷地では、だいこん、にんじんが多く作付けされていますが、雪解けに合わせてレタスの苗づくりが始まり、収穫もレタスが最初となります。

### 環境にあった栽培による良品生産

品種試験による品種選定

産地の環境にあった品種を導入するため、組合では品種試験を実施し、高冷地にあった物を見極めていきます。

やさしいに適した土づくり!

土づくりに重点をおいており、レタスの生育に必要な栄養を蓄えた土壌にするため緑肥や堆肥を施用しています。

### 昔からの「絶対産地」!

なんと、夏秋レタスで国の指定産地になったのは昭和47年で、それから40年以上ずっと産地を守っています。

### 【topic】

南八甲田高原  
野菜生産組合

戦後の入植・開拓から始まり、昭和40年代には畑作・畜産経営から徐々に野菜経営に転換し、昭和55年には組合を組織。平成8年には優れた組織活動が認められ、第34回朝日農業賞を受賞。標高の高い順に善光寺平、大木平、葛川、小国、切明、平六、井戸沢に大別されます。

ほうれんそうは秋からが旬  
夏場でも涼しい青森県は1年中栽培可能



# ほうれんそう

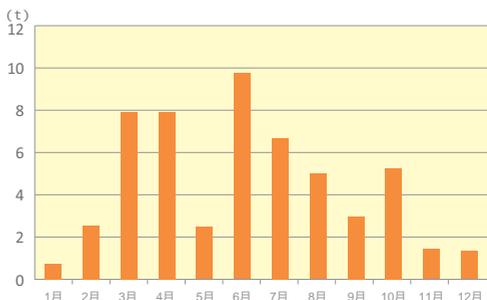
暑さに弱いほうれんそうは、夏が暑い他県では生産が困難です。このため、青森県では、涼しい気候を活かし、夏場の生産拡大を図っています。また、寒さにも強く、冬でも無加温ハウスで栽培できることから、年間を通じた生産も行っていきます。

は種から約1ヶ月で収穫でき、軽作業でできることから、高齢者でも生産が可能です。

全国の生産状況 (H25)

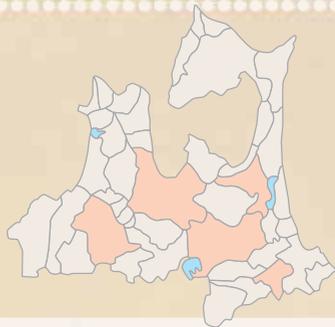
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	千葉	31,200	2,240
2	埼玉	21,700	2,140
3	群馬	16,900	1,820
4	宮崎	16,000	997
5	茨城	13,600	1,140
29	青森	1,380	217
	全国	208,000	21,300

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

青森市、弘前市、南部町、十和田市、東北町



### 産地レポート

## 黒石市厚目内地域

### 高冷地の気候を活かした高品質の施設ほうれんそう

黒石市厚目内地域は、南八甲田山系の南西の標高350mの山間台地にあり、にんじん・だいこんなどの露地野菜を中心に栽培しています。

ほうれんそうは暑さに弱く夏場の栽培が難しい作物ですが、厚目内地域では平成9年頃から高冷地の冷涼な気候を活かした施設ほうれんそうの栽培がはじまりました。

厚目内地域のほうれんそうは、品質の良さや高冷地野菜ならではの日持ちの良さから市場評価も高く高単価で販売されるため、栽培面積が年々増加しており、平成24年現在約80棟のパイプハウスでほうれんそうの栽培が行われています。

この地域のほうれんそうは、5月上旬からは種が始まり9月上旬まで定期的に行われ、収穫は6月上旬から10月末まで同じハウスで3～4回繰り返されます。

収穫されたほうれんそうは、地域の集出荷場へ集められ、津軽みらい農協が青森市等の地場市場へ出荷します。



収穫作業



調整作業



新鮮なほうれんそう

### 寒締めほうれんそう



冬期に葉や茎が縮んでシワシワになったほうれんそうが注目されています。ほうれんそうが寒さに耐えるために葉に糖などを蓄える性質を利用して、冬の冷たい空気にさらすことにより、通常のほうれんそうよりも甘くなったものが「寒締めほうれんそう」です。県内では新郷村、南部町、弘前市、東北町などで生産が盛んです。

寒さに耐える植物は、体内の糖濃度を高めて、凍ってしまうのを防ぐ働きを持っています。寒さに弱い植物・野菜はこの働きが弱く、凍って細胞が壊れ、枯れてしまいます。

ほうれんそうの場合は、糖度が上がるだけでなく、ビタミン類の含有量も高くなります。葉の色も濃くなり、甘みだけでなく濃厚な味になるといわれています。

転作田への導入で生産拡大  
夏期冷涼な気候で全国的に品薄な夏秋期に出荷

# ブロッコリー

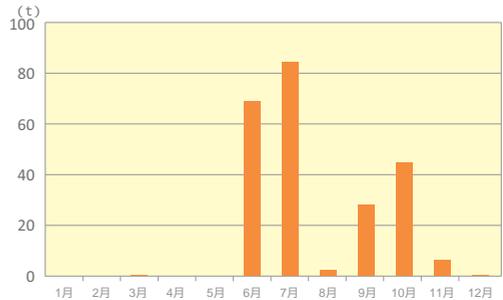
ブロッコリーは、夏場は北海道や長野県、秋冬は愛知県や埼玉県から出荷が多く、青森県ではこれらの産地の端境期となる6月と10月を中心に生産・出荷されています。

主な出荷先である首都圏では、鮮度の良さで高い評価を得ています。

全国の生産状況 (H25)

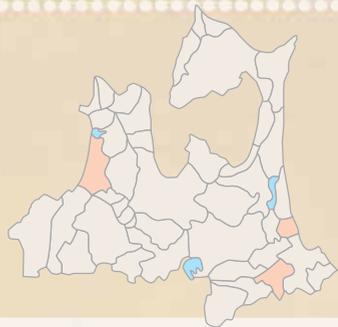
順位	都道府県	出荷量 (t)	作付面積 (ha)
1	北海道	20,500	2,410
2	愛知	13,500	923
3	埼玉	12,900	1,270
4	香川	8,130	885
5	長野	7,310	825
24	青森	953	181
	全国	122,400	13,700

県産月別入荷量 (H25 東京都中央卸売市場)



## 主な産地

三八 南部町  
西北 つがる市  
上北 おいらせ町



### 産地レポート

## JAつがるにしきた

### 稲作地帯にあって野菜の複合経営の柱となる品目へ成長

つがる市は、津軽平野の岩木川左岸に位置する古くからのコメどころ。米の生産調整の強化を背景に、早くからトマトやねぎ等との複合経営化が進められてきました。その中で、ブロッコリーは平成8年に作付が開始され、他品目と労力が重ならず夏場に収益が得られる品目として生産が拡大。平成20年には出荷額が1億円を突破。現在は作付面積が約60haと県内随一の産地が形成されています。



若手生産者の菊池大輔さん

暑い時期は、気温の低い早朝からの収穫を心がけているので、鮮度には自信があります！

### 鮮度を保持する出荷体制を整え市場から高評価

気温の低いうちに収穫したブロッコリーは、すぐに集出荷施設へ搬入され、選別、発砲スチロール箱への箱詰めを経て、保冷库に保管。翌朝、細かく砕いた氷が箱いっぱい詰められ、鮮度と美味しさを保ったまま保冷車で首都圏に出荷されていきます。



東京青果株式会社野菜第一事業部  
水野さん

市場に到着しても鮮度はしっかり保たれ  
茎までおいしく食べられますので、お勧めです



選果・箱詰め



保冷库保管



氷詰め

集出荷施設は、予冷库2基に加え、貯水量8tの製氷貯氷機を備える。



あおもりの 野菜っこ

# まだまだあるぞ！ あomorい野菜



## 嶽きみ

弘前市の西部にある岩木山麓の嶽地区（標高400～500m）で栽培・収穫された甘みの強いスイートコーンで、「嶽きみ」の商標で販売されています。日中と夜間の温度差が生み出す圧倒的な甘さと美味しさが、多くの人に愛され、全国的に有名な産地となっています。

## バサラコーン

青森市の浪岡地区では、粒が大きく、味がよいスイートコーンを生産しており、「バサラコーン」の商標で販売されています。

「バサラ（婆娑羅）」とは、中世代の武将などの華やかな装飾をまとった伊達（だて）な風体やふるまいなどを表しますが、ここでは時代に新風を起こすという意味で使われています。

## アスパラガス

鱒ヶ沢町を筆頭に県内各地で栽培されています。近年は、収穫期間（普通栽培で4月下旬～7月上旬頃）を拡大するために、早めに若茎を伸ばして光合成をさせながら収穫を続ける立茎栽培や、夏に養成した親株をハウスに伏せ込み冬場に出荷する促成栽培などの取組が、JAつがるにしきた、JA十和田おいらせ、平川市や藤崎町で増えています。





## 一球入魂 かぼちゃ

たった1個の実に、株全体のうまみを凝縮させた大変に美味しい高級かぼちゃで、下北地域と今別地域の特産野菜として注目されています。

濃い緑色の果皮と山吹色の鮮やかな果肉、糖度13～15度の甘さとホクホクした食感の絶妙なバランスが特徴です。

一球入魂かぼちゃブランド戦略協議会が商標登録して、販売しています。

## アピオス

アピオスは北米原産のマメ科の植物で、数珠状に連なるイモを食用とします。青森県の南部地方では明治時代から「ホドイモ」と呼ばれて食されてきました。主産地は三八・上北地域ですが、最近では東青地域や下北地域でも栽培されています。

ゆでたり蒸すことでホクホクして癖のない甘みを楽しむことができます。



## マコモタケ

マコモタケは、東アジア原産のイネ科の多年草マコモの茎が肥大化したものです。板柳町が平成16年に友好協定を結んでいる中国北京市昌平区から苗を譲り受けたのが栽培の始まりで、今では水田を活用した転作作物として定着し、低カロリー、ほのかな甘みとシャキシャキした食感のヘルシー食材としてファンを増やしています。

あおもりの野菜っこ



# 青森の伝統野菜



## 清水森ナンバ

旧津軽藩主が京都から持ち帰ったのが栽培の始まりと伝えられている在来種のトウガラシで、弘前市清水森地区で栽培されていましたが、一時は栽培者がたった1戸だけになってしまいました。

2004年に、地元関係者や学識経験者などが「在来津軽『清水森ナンバ』ブランド確立研究会」を設立し、種子の確保、栽培体系の確立に取り組み、爽やかな辛さとほのかな甘みが特徴の特産品として復活を遂げています。

## 大鰐温泉もやし

大鰐温泉の特産品で、江戸時代には津軽藩主への献上品とされていました。

温泉を熱源とした半地下の「土室（つちむろ）」の中で生産され、栽培から出荷洗浄までに使用する水も温泉水を使っていることから、独特の芳香とシャキシャキした食感が特徴です。おひたしや炒め物、鍋物などにされています。

## 食用ぎく

三八地域で古くから栽培されている食用ぎくの主力品種の「阿房宮」は、鮮やかな黄色と気品のあふる香り、しゃきしゃきした食感が特徴です。

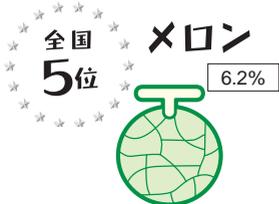
10月下旬から11月上旬にかけて、ひとつずつ摘み取られ、酢の物や和え物などの郷土料理の彩りとして欠かせない存在となっています。食用ぎくを蒸して乾燥させた「干し菊」は青森県の特産品です。



《出荷量の全国順位とシェア》

出荷量の全国ベスト10に11品目（H25）

青森県で生産される野菜の中には、全国一の出荷量を誇るながいも、にんにく、ごぼうをはじめとして、だいこん、かぶなど出荷量が全国の10位以内に入る品目が11品目あります。



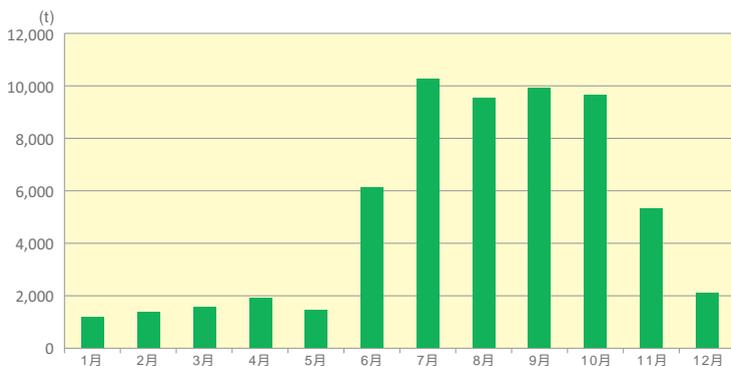
資料：野菜生産出荷統計

## 夏秋期に高い評価

ながいもやにんにく、ごぼうなど貯蔵のきく一部の品目を除くと、青森県産野菜の出荷時期は夏秋期が中心です。

一般に、気温が高くなると、病害虫の発生が多く良品質の野菜を生産することが困難になります。青森県は、夏場が比較的冷涼なことから、夏秋期に品質の優れた美味しい野菜を生産しています。

< 東京都中央卸売市場における青森県産野菜の入荷量 ( H25 ) >

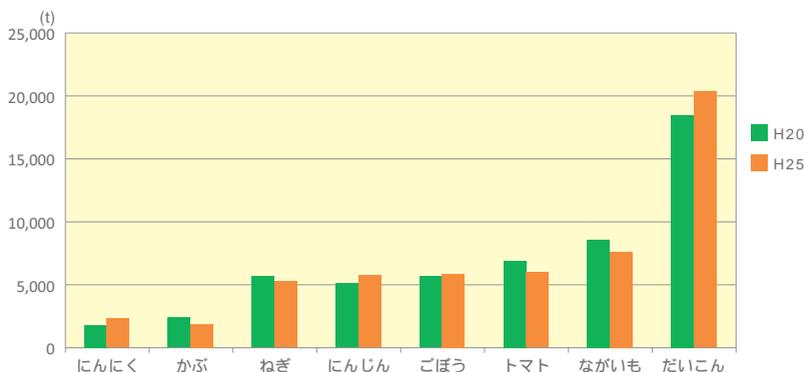


## 東北では1位のシェア

高速交通網の整備やコールドチェーン（産地から消費地まで一貫した低温状態での流通）の発達等によって遠隔地への出荷が拡大しています。

東京都中央卸売市場への出荷量は、平成25年には 59,772 t で全国で 8 位、東北で 1 位のシェアを占めています。

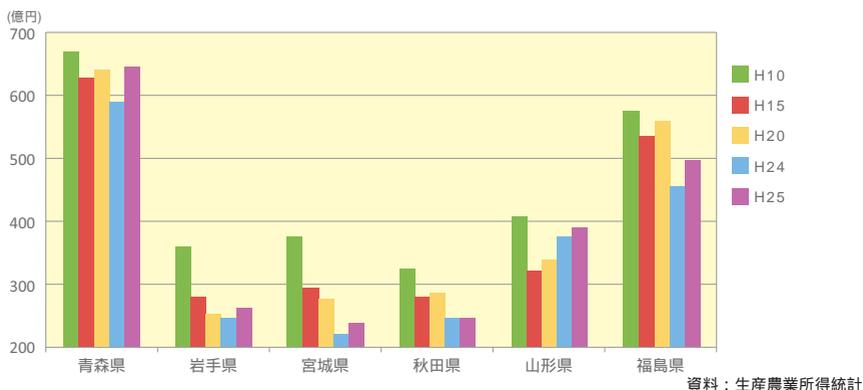
< 東京都中央卸売市場における青森県産野菜入荷量の変化 >



## 野菜産出額東北一を堅持

平成25年の野菜産出額（いも類含む）は、641億円となり、全国で13位、東北では平成6年に福島県を抜いて以来、20年連続して1位になっています。

### < 野菜産出額の推移 >

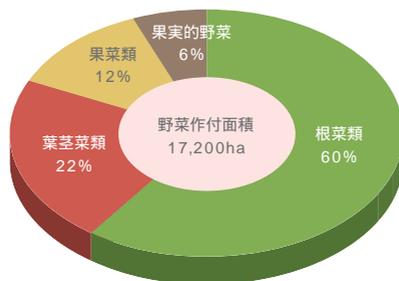


## 広大な農地を利用して根菜類中心の作付け

平成25年の野菜作付面積は、17,200haと前年に比べやや減少しているものの、全国で7位の作付面積を誇り、東北の約1/4を占めています。

品目別では、ながいも、にんにく、だいこんなどの根菜・土物類が大きな割合を占めています。

### < 青森県の野菜の類別作付面積構成比（H25） >



資料：野菜作付面積：農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率別面積構成比：野菜生産出荷統計（青森県データがある39品目で算出）

# 付 表

## 主要野菜の生産・出荷状況（H25）

区 分	青 森 県			全 国			全国シェア（%）			全国順位		
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	面積	収穫量	出荷量	面積	収穫量	出荷量
だいこん	2,990	124,300	111,900	33,700	1,457,000	1,172,000	9	9	10	2	3	3
やまのいも	2,280	59,300	51,600	7,350	159,800	131,600	31	37	39	1	1	1
うち、ながいも	2,250	59,000	51,300	5,200	136,500	114,900	43	43	45	1	1	1
ごぼう	2,360	51,400	46,300	8,570	157,600	133,600	28	33	35	1	1	1
にんにく	1,380	13,800	9,940	2,340	20,900	14,500	59	66	69	1	1	1
にんじん	1,270	40,300	37,400	18,500	603,900	535,900	7	7	7	3	4	4
ばれいしょ	884	18,600	13,400	79,700	2,408,000	1,999,000	1	1	1	8	8	6
メロン	585	10,900	9,530	7,560	168,700	153,100	8	6	6	5	5	5
ねぎ	579	14,400	11,400	22,900	477,500	380,700	3	3	3	13	7	7
キャベツ	492	16,900	14,500	34,300	1,440,000	1,276,000	1	1	1	15	14	14
スイートコーン	457	3,760	1,960	24,400	236,800	191,000	2	2	1	13	12	15
トマト	378	17,800	15,600	12,100	747,500	670,500	3	2	2	10	13	13
うち、ミニトマト	42	1,760	1,570	2,160	125,900	115,400	2	1	1	16	17	17
うち、加工用トマト	1	27	27	474	35,400	34,500	0	0	0	14	14	14
すいか	337	9,910	8,410	11,000	355,300	304,700	3	3	3	13	13	13
えだまめ	314	1,290	520	12,400	62,700	46,100	3	2	1	11	13	20
はくさい	244	5,680	3,440	17,800	906,300	730,600	1	1	0	21	28	25
かぼちゃ	252	2,800	1,490	16,600	211,800	168,000	2	1	1	12	10	13
かぶ	217	8,290	7,290	4,750	132,500	108,500	5	6	7	4	3	3
ほうれんそう	217	1,860	1,380	21,300	250,300	208,000	1	1	1	26	30	29
ブロッコリー	181	1,140	953	13,700	137,000	122,400	1	1	1	17	24	24
きゅうり	178	5,210	3,860	11,400	574,400	487,400	2	1	1	19	26	27
アスパラガス	166	603	442	5,770	29,600	26,100	3	2	2	8	16	16
なす	130	1,590	688	9,700	321,200	245,900	1	0	0	31	43	41
レタス	113	2,180	1,930	21,300	579,000	547,100	1	0	0	24	24	24
うち、サラダ菜	1	19	17	463	8,250	7,520	0	0	0	30	34	34
さやいんげん	124	900	562	5,990	41,300	27,000	2	2	2	15	11	11
いちご	91	1,060	863	5,600	165,600	151,800	2	1	1	20	31	31
ピーマン	100	3,350	2,830	3,360	145,300	126,300	3	2	2	8	9	9
うち、ししとう	2	10	4	365	7,990	6,510	1	0	0	37	43	43
さやえんどう	65	306	148	3,110	20,400	12,800	2	2	1	19	24	19
グリーンピース	0	0	0	828	6,530	5,150	0	0	0	37	41	40
こまつな	36	470	402	6,450	105,200	91,100	1	0	0	39	39	39
しゅんぎく	41	286	172	2,010	30,700	24,600	2	1	1	14	26	29
たまねぎ	22	348	247	25,200	1,068,000	940,700	0	0	0	47	47	44
カリフラワー	22	207	152	1,290	22,200	18,500	2	1	1	17	20	19
そらまめ	21	260	233	2,110	18,000	12,800	1	1	2	25	13	10
にら	17	132	73	2,210	63,900	57,800	1	0	0	17	25	23
ちんげんさい	12	124	82	2,380	47,000	41,200	1	0	0	27	33	35
ふき	18	93	24	616	12,400	10,400	3	1	0	9	20	30
さといも	10	102	36	13,000	162,100	102,700	0	0	0	46	45	46
みつば	9	91	73	1,060	15,800	14,700	1	1	0	17	18	18
みずな	11	90	70	2,490	41,800	37,200	0	0	0	35	40	39
セルリー	3	33	26	604	34,000	32,300	0	0	0	13	21	21

注：「-」は生産・出荷の事実がないことを示す。

資料：野菜生産出荷統計

## 野菜生産状況の推移

区 分	青 森 県				全 国			
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	作付面積 (ha)	収穫量 (千t)	出荷量 (千t)	出荷率 (%)
S 50	17,500	397,500	268,580	67.6	656,200	17,906	13,346	74.5
S 55	19,400	380,500	280,113	73.6	682,700	18,676	14,460	77.4
S 60	21,030	451,947	354,041	78.3	681,100	18,896	14,811	78.4
H元	21,930	461,346	361,704	78.4	658,700	18,507	14,578	78.8
H 2	22,170	495,529	387,064	78.1	647,200	18,107	14,269	78.8
H 3	22,060	480,821	377,717	78.6	639,400	17,727	14,081	79.4
H 4	22,020	477,273	373,947	78.4	631,100	18,009	14,254	79.1
H 5	21,920	453,707	358,709	79.1	617,700	17,065	13,665	80.1
H 6	21,970	484,481	386,476	79.8	602,100	16,852	13,500	80.1
H 7	21,250	490,791	396,001	80.7	588,200	16,907	13,557	80.2
H 8	21,130	482,076	383,604	79.6	579,300	16,666	13,376	80.3
H 9	21,030	489,856	388,721	79.4	569,300	16,675	13,426	80.5
H 10	20,990	471,130	373,255	79.2	560,000	15,707	12,687	80.8
H 11	20,940	494,424	392,552	79.4	553,200	15,829	12,804	80.9
H 12	20,850	499,172	399,409	80.0	539,600	15,667	12,694	81.0
H 13	20,130	482,354	386,881	80.2	524,800	15,547	12,628	81.2
H 14	18,900	469,900	377,800	80.4	539,300	15,695	12,781	81.4
H 15	18,200	440,000	357,600	81.3	528,200	15,169	12,419	81.9
H 16	17,900	467,300	381,600	81.7	519,400	14,540	11,922	82.0
H 17	17,100	457,600	374,900	81.9	511,900	14,528	11,895	81.9
H 18	17,400	477,300	394,400	82.6	505,800	14,332	11,749	82.0
H 19	18,126	482,798	404,609	83.8	503,360	14,746	12,230	82.9
H 20	17,442	468,928	395,289	84.3	500,703	14,604	12,127	83.0
H 21	16,588	443,860	380,681	85.8	498,160	14,048	11,660	83.0
H 22	17,403	417,192	356,027	85.3	495,535	13,365	11,129	83.3
H 23	16,009	425,459	367,389	86.4	490,271	13,513	11,298	83.6
H 24	15,586	462,478	355,947	77.0	488,448	13,799	11,561	83.8
H 25	16,606	419,865	359,926	85.7	481,338	13,551	11,451	84.5
H 25/ H 15	91%	95%	101%	-	91%	89%	92%	-
H 25/ H 20	95%	90%	91%	-	96%	93%	94%	-
H 25/ H 24	107%	91%	101%	-	99%	98%	99%	-

注) 野菜生産出荷統計の調査品目の積上げ

資料: 野菜生産出荷統計

## 野菜産出額及び農業産出額の推移

区 分	野 菜 産 出 額					農 業 産 出 額		
	青森県 (億円)	東 北 (億円)	全 国 (億円)	青森県の順位		青森県 (億円)	野菜の占 める割合 (%)	全 国 (億円)
				東 北	全 国			
S 50	295	1,551	14,951	2	19	2,908	10.1	89,751
S 55	343	1,429	20,858	3	21	2,345	14.6	102,293
S 60	516	2,409	23,981	2	16	2,723	18.9	104,636
H元	530	2,522	24,665	2	16	3,173	16.7	109,583
H 2	620	2,811	27,168	2	16	3,270	19.0	112,786
H 3	622	2,897	28,495	2	17	3,004	20.7	111,865
H 4	580	2,681	25,969	2	16	3,500	16.6	111,385
H 5	637	2,848	27,774	2	16	2,552	25.0	104,069
H 6	705	2,877	27,514	1	14	3,575	19.7	112,691
H 7	646	2,672	26,481	1	15	3,193	20.2	105,846
H 8	647	2,587	25,642	1	14	3,131	20.7	104,468
H 9	630	2,620	25,378	1	15	2,849	22.1	98,316
H10	667	2,708	27,419	1	15	2,801	23.8	98,680
H11	666	2,594	24,991	1	14	2,776	24.0	94,718
H12	630	2,426	23,486	1	14	2,648	23.8	92,574
H13	598	2,375	22,861	1	14	2,575	23.2	89,734
H14	625	2,427	23,864	1	13	2,570	24.3	89,261
H15	626	2,337	23,370	1	14	2,402	26.1	89,011
H16	716	2,490	23,421	1	10	2,953	24.2	89,130
H17	611	2,227	22,337	1	14	2,797	21.8	88,058
H18	675	2,378	22,565	1	12	2,885	23.3	86,321
H19	697	2,450	22,879	1	12	2,858	24.3	84,449
H20	639	2,349	23,188	1	14	2,828	22.6	86,509
H21	585	2,299	22,965	1	14	2,664	22.0	83,136
H22	661	2,401	24,585	1	13	2,757	24.0	82,551
H23	631	2,179	23,405	1	13	2,804	22.5	83,455
H24	588	2,133	23,746	1	14	2,759	21.3	86,106
H25	641	2,275	24,529	1	13	2,835	22.6	85,742
H25/H15	102.4	97.3	105.0	-	-	118.0	-	96.3
H25/H20	100.3	96.8	105.8	-	-	100.2	-	99.1
H25/H24	109.0	106.7	103.3	-	-	102.8	-	99.6

注：野菜産出量は野菜+いも類の合計値

資料：生産農業所得統計

東京都中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H25）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	59,772	4	1	1	1	1	1	5	8	7	8	7	4	2
だいこん	20,262	15	0	0	0	0	1	56	38	21	35	34	14	0
ながいも	7,588	74	74	70	71	71	82	77	75	74	76	79	61	76
トマト	5,921	7	0	0	0	0	0	1	16	23	17	11	2	0
ごぼう	5,757	54	60	63	62	68	48	25	11	13	44	64	72	63
にんじん	5,664	6	0	0	2	3	0	1	43	16	1	5	10	0
ねぎ	5,150	9	0	0	0	0	0	0	1	22	30	25	16	3
にんにく	2,180	47	50	56	56	51	33	34	33	46	55	53	46	55
かぶ	1,811	11	1	1	0	0	1	23	40	52	29	17	7	2
ばれいしょ	1,026	1	0	0	0	0	0	0	1	9	5	0	0	0
すいか	961	2	0	0	0	0	0	0	1	8	9	2	0	0
メロン	836	4	0	0	0	0	0	0	1	20	16	0	0	0
キャベツ	805	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0
きゅうり	756	1	0	0	0	0	0	0	2	5	2	0	0	0
ピーマン	622	3	0	0	0	0	0	0	3	13	10	4	0	0
ミニトマト	555	3	0	0	0	0	0	2	7	11	8	4	1	0
かぼちゃ	316	1	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	0	0
ブロッコリー	233	1	0	0	0	0	0	4	4	0	2	2	0	0
いんげん	221	5	0	0	0	0	0	1	7	20	23	9	0	0
えだまめ	135	3	0	0	0	0	0	0	1	5	6	1	0	0
スイートコーン	71	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0
アスパラガス	61	1	1	0	0	0	2	3	1	1	0	0	0	0
はくさい	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ほうれんそう	53	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0
いちご	28	0	0	0	0	0	0	2	10	9	6	5	0	0
さやえんどう	9	1	0	0	0	0	0	3	8	0	0	0	0	0
なす	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レタス	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注：野菜計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン・すいか等）を含まない。

大阪市中央卸売市場（本場）における青森県産の入荷量とシェア（H25）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜計	6,870	2	1	1	1	1	1	3	5	4	3	2	2	1
西洋にんじん	1,311	6	0	0	0	0	0	1	57	10	3	1	1	0
ごぼう	1,294	18	12	14	23	32	27	5	13	3	5	24	29	13
だいこん	1,227	5	0	0	0	0	0	50	4	1	7	6	6	0
ばれいしょ	816	2	0	0	0	0	0	0	6	20	4	0	0	1
ながいも	783	15	19	16	14	15	15	14	11	18	18	13	10	16
にんにく	443	68	76	78	72	69	63	60	60	54	54	78	77	77
メロン	415	6	0	0	0	0	0	0	5	27	5	0	0	0
ピーマン	349	8	0	0	0	0	0	0	5	25	27	20	4	0
かぶ	256	20	0	0	0	0	7	89	100	97	94	67	5	1
すいか	186	1	0	0	0	0	0	0	0	4	8	0	0	0
きゅうり	64	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0
きぬさやえんどう	8	6	0	0	0	0	4	36	26	2	18	12	1	0

注：野菜計は当該市場の野菜入荷量の合計であり、果実的野菜（メロン・すいか等）を含まない。

名古屋市中央卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H25）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜計	13,837	3	2	2	2	1	2	5	8	5	4	4	5	2
ながいも	3,539	50	57	56	58		53	58	54	55	59	55	43	54
だいこん	3,935	17	0	0	0	0	0	56	49	23	31	32	19	0
ごぼう	3,128	46	49	49	47	73	55	23		0	35	55	70	53
にんじん	1,597	7	0	0	0	0	0	0	65	10	0	4	10	0
メークイン	524	12	0	0	0	0	0	0	26	71	25		0	0
にんにく	487	53	51	66	58	54	43	44	40	51	58	48	57	55
メロン	388	5	0	0	0	0	0	0	5	29	7		0	0
ばれいしょ	266	1	0		0	0	0	0	0	17	1	0		0
すいか	251	2	0	0	0	0	0	0	0	9	6	0	0	0
かぶ	157	12	0	0	0	0	0	80	67	52	56	27	0	0
ピーマン	95	2	0	0	0	0	0	0	0	6	8	9	0	0
ねぎ	46	1	0	0	0	0	0		3	2	7		0	0
やまのいも	30	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	56
そらまめ	18	4	0	0	0	0	0	20	84	0	-	-	-	0
きぬさやえんどう	7	2	0	0	0	0	0	20	23	1	32	7	0	0
たらの芽	4	68	87	73	57	58	0	-	-	-	-	-	-	97
とうもろこし	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注：赤色塗り部分■は、H24年には実績があるが、H25年の本県実績が公表されていない月である。  
野菜計は、公表のあった数値を積み上げたものである。

県内卸売市場における青森県産の入荷量とシェア（H25）

品目	入荷量 (t)	月別シェア(%)												
		年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野菜合計	125,916	59	29	30	28	36	31	60	78	78	78	79	76	54
だいこん	33,000	83	4	3	1	1	36	97	98	99	99	98	89	10
ごぼう	27,161	99	100	100	99	99	98	92	62	58	98	100	100	100
ながいも	19,007	99	99	98	99	100	99	99	100	100	99	100	99	98
にんじん	11,308	68	16	17	32	53	10	13	98	92	76	89	88	26
キャベツ	8,898	50	8	4	1	0	1	44	89	91	90	91	71	19
メロン	5,371	82	-	-	-	-	-	6	85	99	98	6	8	3
すいか	5,220	77	-	-	-	-	-	0	78	96	99	-	-	-
にんにく	3,607	97	97	98	97	96	93	91	97	97	98	95	97	97
ねぎ	3,105	52	14	9	8	6	27	35	37	80	88	88	80	48
トマト	2,572	41	6	4	0	-	4	26	87	93	93	82	46	4
はくさい	2,133	31	1	2	0	-	2	69	50	38	48	66	68	15
きゅうり	1,770	29	0	-	0	2	9	31	69	85	74	42	12	0
ばれいしょ	1,476	22	9	7	3	3	2	0	18	85	51	20	14	5
ほうれんそう	875	38	17	24	35	46	36	49	52	55	54	59	44	25
レタス	841	21	2	1	1	4	21	47	48	56	39	13	4	1
ピーマン	754	41	-	-	1	-	-	3	59	82	89	68	16	1
いちご	557	31	10	12	16	42	47	94	96	100	92	75	16	13
なす	257	12	-	-	-	-	-	0	14	42	42	16	-	-
たまねぎ	54	0	-	0	0	0	-	-	0	2	1	0	-	1
さといも	13	6	-	-	-	-	-	-	-	-	18	27	16	4
かんしょ	9	0	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	9,076	34	13	11	12	16	21	40	47	59	51	49	46	23

注：県内卸売市場（青森市、弘前市、八戸市、五所川原市、十和田市、南部町、むつ市）7市場における割合である。



Aomori vegetables Calender in Season

# 旬のカレンダー



品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.ながいも	■											
2.にんにく	■											
3.だいこん						■	■	■	■	■		
4.にんじん	■	■	■	■		■	■	■	■	■		
5.アスパラガス	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
6.こかぶ					■	■	■	■	■	■		
7.トマト							■	■	■	■	■	
8.ばれいしょ							■	■	■	■	■	
9.とうもろこし							■	■	■	■	■	
10.えだまめ							■	■	■	■	■	
11.ごぼう	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
12.ねぎ								■	■	■	■	■
13.キャベツ							■	■	■	■	■	■
14.きゅうり						■	■	■	■	■	■	■
15.レタス							■	■	■	■	■	■
16.ピーマン						■	■	■	■	■	■	■
17.かぼちゃ								■	■	■	■	■
18.ほうれんそう	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
19.食用ぎく									■	■	■	■
20.メロン							■	■	■	■	■	■
21.すいか							■	■	■	■	■	■
22.いちご	■											

雪にんじん

促成栽培

寒締め

# 「日本一健康な土づくり運動」

青森県では、すべての農業者が「健康な土づくり」に取り  
「日本一健康な土づくり運動」を展開しています

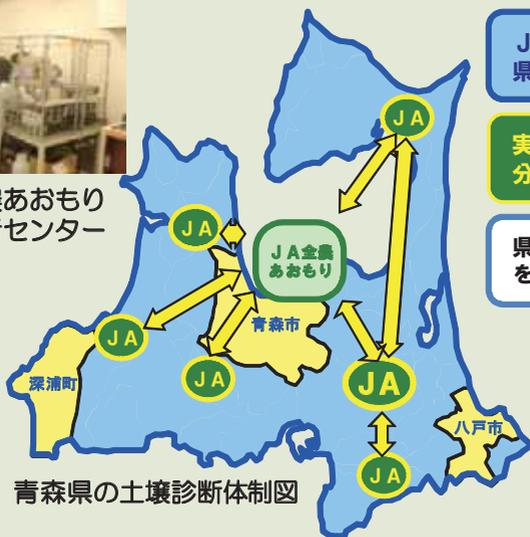
健康な土づくりの流れ

## ① 土壌診断の実施

- 土の健康診断である「土壌診断」を実施し、適正施肥を推進
- 農協グループを中心とした効率的な土壌診断体制を整備



JA全農あおもり  
土壌分析センター



○ 健康な土づくりにより、作物が丈夫に育ち、品質の良い、美味しい農産物が消費者に提供されます



食卓が笑顔に



元気な農産物

# 「活動」展開中！

取り組むことを目指す

と主な取組内容



## ②土づくりの実践

- 「健康な土づくり」に取り組む「土づくりファーマー」を育成
- 土づくりの基本技術(たい肥の利用など)を励行
- 持続可能な土づくり体制を構築



生産者への土づくりの啓発



稲わらのすき込みやたい肥など有機質資源の有効利用



作業組織等の育成やたい肥センターの活用

## ③栽培管理、収穫

- 土づくりほ場での栽培管理～収穫作業<例：ながいも>



植付



栽培管理



収穫

# 青森「冬の旬」の野菜たち

○冬のハウス栽培では、ほうれんそうやこまつ菜の「寒締め栽培」やいちごなどの生産が行われています。

○雪の下から収穫するにんじんもあります。

○寒さの中でゆっくり育つので栄養価が高い野菜になります。

○冬は病害虫の発生が少なく、ほとんど農薬を使わずに済むため、安全・安心です。





たらの芽

ほうれんそう

ごまつ菜

アスパラガス

ほうれんそう

ごまつ菜

いちご

うど

ほうれんそう

○寒さを利用した加工品も作られています。

○雪を利用した取組も行われています。



この印刷物は、1,500部作成し、印刷経費は1部当たり105円です。